



①鹿児島県立鹿屋農業高等学校による選手宣誓 ②チームワークも重要な要素 ③④全30校の生徒が自分たちの取り組み内容をプレゼンテーション ⑤他校の工夫から学べる事は非常に多い ⑥大型モニターに資料を映しながら解説 ⑦⑧立食パーティー形式で行われた「学校交流会」とクイズ大会の様子

たくさんの方の事を学びました。私たちは命をいただく事で生かされているという重みをしつかりと受け止め、仲間を信じて最後まで諦めずに取り組みできた成果として、日本中に『この牛肉美味しい』という笑顔の花を咲かせたいと思います。そして今大会を通して全国の高校牛児が心をつなぎ、和牛の未来を作っていく事をここに誓います」と力強く選手宣誓を行った。

「体験発表会」や「学校交流会」などを通じて他校の仲間たちと交流

本大会は、「取組評価部門」（体験発表会）と「枝肉評価部門」をそれぞれ50点満点で審査し、最優秀賞や優秀賞などの各賞が授与される。また、両部門の合算得点で「総合評価部門」の最優秀賞が決定する。

「体験発表会」では、各校が自分たちの取り組みに関する多彩な資料を大型モニターに映しながら7分間の発表を行い、肥育環境や直面している課題、その克服に向けて講じた対策、今後の展望などをプレゼンテーション。「取組評価部門」の多田耕太郎審査委員長（東京農業大学農学部教授）は、「どの高校の取り組みもハイレベルで、豊富な図表を用いた発表も分かりやすく、得点をつける審査委員たちはおおいに悩まされました」と全体を講評した。

全30校による「体験発表会」終了後は、立食パーティー形式の「学校交流会」を開催。チーム対抗のクイズ大会などで盛り上がるともに、親しくなった



第3回「和牛甲子園」開催！



“高校牛児”が肥育技術を競う

1月16日～17日にかけて、全国の農業高校生が肥育技術を競う「和牛甲子園」が、東京・品川の会場で開催された。前回大会より多くの高校が出場し、日々の取り組み内容や出品牛の肉質が審査された。

鹿児島県立市来農芸高等学校が「総合部門」最優秀賞を受賞

「先生や先輩、地域の畜産関係者の方々から多くのアドバイスを受けたら、日々の飼育に地道に取り組んだ事がこの結果につながりました。和牛肥育を通じて命の大切さを知り、自分たちが大きく成長できた事を感じています。次回大会では『枝肉評価部門』でも最優秀賞を受賞して『総合評価部門』2連覇を達成できるように、引き続き万全の飼養管理に励みます」（鹿児島県立市来農芸高等学校の皆さん）

17県、30校の高校生が全44頭の和牛を出品

畜産学科が設置されている全国の農業高校では、授業やクラブ活動の一環として生徒が主体的に和牛肥育を行っている。「和牛甲子園」は、そんな「牛児」たちが日頃の取り組み内容を発表し、その成果である枝肉の肉質を競い合う大会だ。

3回目となる今大会には、青森県から鹿児島県まで全30校（内、初出場9校）が出場し、合計44頭の和牛が出品された。

初日の開会式では、JA全農の齊藤良樹常務理事が主催者を代表して、「『和牛甲子園』には、日頃皆さんが取り組まれている活動を共有してもらい、牛飼いの楽しさを分かち合える仲間を作ってもらいたいという私たちの思いが込められています。皆さんは今、それぞれの高校でさまざまな素晴らしい経験を積み重ねておられるでしょう。この大会を通じて牛飼いの仕事をもっと好きになってください。JAグループは皆さんを全力で応援し、この2日間が有意義なものとなる事を祈念いたします」と挨拶した。

前年の「総合部門」最優秀賞受賞校、岐阜県立飛騨高山高等学校による優勝旗返還に続き、鹿児島県立鹿屋農業高等学校の田中拓実さんが、「私たち高校牛児は、今この和牛甲子園という大舞台に立てる事に誇りと幸せを感じます。この3年間、大切に育ててきた牛から喜びや優しさ、遅しさを、

表3. 令和元年度 第3回和牛甲子園 一 枝肉評価部門(全国農業高等学校和牛枝肉共励会)成績表

学校名 (出品者氏名)	性	出荷 月齢	血統			出高体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	歩留 基準値	規格	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	BMS No.	オレイン 酸	MUFA (一価不飽和脂肪酸)	賞 (肉質)
			父	母の父	母の祖父										
青森県立三本木農業高等学校	去勢	28	第1花国	福栄	北国7の8	847	548	73.6	A4	57	8.2	5	50.3	59.1	
青森県立三本木農業高等学校	去勢	29	優福栄	第1花国	福栄	747	497	74.4	A5	58	8.4	9	52.6	61.3	
岩手県立遠野緑峰高等学校	去勢	28	花国安福	美津照重	福栄	879	554	74.3	A5	72	7.6	11	50.9	59.3	
岩手県立水沢農業高等学校	去勢	32	菊福秀	華春福	安福久	868	604	79.6	A5	100	9.6	12	52.2	60.7	最優秀賞
岩手県立水沢農業高等学校	去勢	28	幸紀雄	秀菊安	忠富士	847	593	74.3	A5	73	8.7	12	53.7	62.5	優秀賞
宮城県小牛田農林高等学校	雌	25	茂晴花	勝洋	勝忠平	588	387	74.4	A5	57	7.3	9	52.5	59.8	
福島県立会津農林高等学校	去勢	29	隆之國	安福久	平茂晴	723	480	73.8	A5	55	8.1	8	48.3	56.7	
福島県立会津農林高等学校	雌	28	美津照重	美国桜	安平幸	706	479	73.6	A5	66	7.7	10	54.9	64.3	
栃木県立宇都宮白楊高等学校	去勢	32	芳之國	勝忠平	白清85の3	909	630	75.8	A5	88	8.8	11	55.9	65.9	
栃木県立宇都宮白楊高等学校	去勢	27	幸紀雄	勝忠平	北国7の8	818	542	73.4	A5	63	8.2	10	55.3	63.8	
栃木県立鹿沼南高等学校	雌	30	芳之國	安福久	平茂勝	690	471	73.8	A5	66	7.3	11	56.0	63.0	
栃木県立鹿沼南高等学校	去勢	27	福華1	美津照重	金幸	949	650	74.7	A5	77	9.8	11	51.3	61.4	
栃木県立栃木農業高等学校	去勢	28	美津照重	平茂晴	平茂勝	909	580	74.1	A5	73	8.0	12	50.4	57.5	
栃木県立那須拓陽高等学校	去勢	32	幸紀雄	美津照重	平茂勝	925	615	76.8	A5	90	8.3	11	58.1	66.4	
栃木県立那須拓陽高等学校	去勢	29	美国桜	百合茂	勝忠平	861	575	76.0	A5	76	9.5	8	51.5	59.4	
栃木県立真岡北陵高等学校	雌	32	美国桜	安福久	百合茂	648	444	79.2	A5	88	8.0	12	55.4	62.5	優良賞
栃木県立矢板高等学校	去勢	26	第1花藤	光平照	勝忠平	751	502	74.8	A5	63	8.8	11	50.9	58.0	
栃木県立矢板高等学校	去勢	29	菊福秀	芳之國	安福久	768	515	73.5	A5	54	8.5	10	52.1	59.9	
群馬県立利根実業高等学校	去勢	32	美津百合	芳之國	平茂勝	784	535	74.2	A5	63	8.3	9	54.5	62.9	
群馬県立利根実業高等学校	去勢	28	茂晴花	美津百合	北仁	766	498	75.4	A5	66	8.7	10	50.7	58.9	
富山県立中央農業高等学校	雌	34	安茂勝	北国7の8	紋次郎	674	433	74.9	A3	56	7.5	4	53.4	62.0	
岐阜県立大垣養老高等学校	去勢	29	花清勝	福之國	安平	776	528	72.1	A4	55	8.3	7	57.1	66.5	
岐阜県立加茂農林高等学校	雌	29	花清國	羅威傳王	安福(岐阜)	588	373	74.1	A4	50	6.7	5	51.4	58.0	
岐阜県立飛騨高山高等学校	去勢	33	花清勝	飛騨白清	寿恵福	841	559	71.8	B5	57	8.3	10	50.6	58.3	
岐阜県立飛騨高山高等学校	雌	33	孝隆平	羅威傳王	飛騨白清	586	379	76.0	A5	62	8.3	12	56.3	65.1	優秀賞
愛知県立渥美農業高等学校	雌	29	芳之國	安福久	百合茂	769	518	73.3	A5	65	8.2	9	53.2	61.2	
愛知県立渥美農業高等学校	雌	28	芳之國	安福久	忠富士	634	442	73.9	A5	67	8.1	8	54.7	62.9	
滋賀県立長浜農業高等学校	去勢	32	松福美	藤平茂	照長土井	628	406	74.6	A4	60	6.7	7	57.0	65.8	
滋賀県立長浜農業高等学校	去勢	32	安茂勝	松福美	北仁	739	490	74.7	A5	63	7.5	8	58.5	66.6	
島根県立出雲農林高等学校	去勢	27	久茂福	安福久	平茂勝	710	469	75.2	A5	62	7.6	10	55.3	63.1	
岡山県立瀬戸南高等学校	雌	27	美盛光	勝福茂	利花	681	443	73.8	A3	58	7.1	3	55.7	63.4	
広島県立西条農業高等学校	去勢	30	茂晴花	田安照	安茂勝	864	564	73.9	A5	67	8.0	12	53.1	61.4	優良賞
広島県立庄原実業高等学校	去勢	29	3柴沖茂	美津照重	勝忠平	793	506	75.2	A5	66	8.9	10	52.7	62.7	
熊本県立南校高等学校	去勢	30	百合茂	安福久	平茂勝	802	542	76.5	A5	77	7.8	10	50.0	56.9	
熊本県立南校高等学校	去勢	29	美国桜	安福久	平茂勝	726	503	78.4	A5	86	8.7	9	54.1	62.5	
鹿児島県立市来農芸高等学校	雌	31	華春福	喜亀忠	金幸福	884	615	76.9	A5	95	9.7	12	53.9	63.9	
鹿児島県立市来農芸高等学校	雌	30	安福久	百合茂	金幸	791	539	73.2	A5	65	8.0	12	54.5	63.7	優良賞
鹿児島県立鶴翔高等学校	去勢	29	秀幸福	隆之國	安福久	882	582	75.3	A5	76	8.8	8	56.3	65.7	
鹿児島県立鶴翔高等学校	雌	26	秀幸福	百合茂	紋次郎	699	472	75.5	A5	64	9.2	11	56.0	63.9	
鹿児島県立加世田常潤高等学校	雌	31	喜亀忠	華春福	金幸	840	575	73.8	A4	74	10.3	7	58.2	65.5	
鹿児島県立鹿屋農業高等学校	去勢	30	華春福	安福久	21世紀	787	542	76.7	A5	80	9.5	12	51.9	60.2	
鹿児島県立鹿屋農業高等学校	去勢	26	華春福	隆之國	安福久	825	555	75.2	A5	73	8.4	11	53.7	62.4	
鹿児島県立曾於高等学校	去勢	31	政忠幸	金幸福	安幸福	857	587	74.2	A5	64	9.6	11	52.1	60.8	
鹿児島県立曾於高等学校	去勢	28	直太郎	隆之國	百合茂	947	631	72.5	A5	66	8.6	9	50.0	58.5	

「佐賀県立唐津南高等学校」と「**★**神奈川県立中央農業高等学校」は、体験発表のみ出場

★は初出場校



①「和牛甲子園」への関心が年々高まり、回を追うごとに参加校が増加している ②「枝肉評価部門」で最優秀賞を受賞した岩手県立水沢農業高等学校の皆さん ③「枝肉勉強会」では自分たちが出品した枝肉を観察しながら、市場取引の評価基準などを学習 ④来賓として挨拶された農林水産省生産局畜産部の渡邊毅部長

表1. 令和元年度 第3回和牛甲子園 一 取組評価部門 成績表

褒賞	学校名
最優秀賞(1校)	鹿児島県立市来農芸高等学校
優秀賞(2校)	鹿児島県立鶴翔高等学校
	宮城県小牛田農林高等学校
優良賞(3校)	神奈川県立中央農業高等学校
	広島県立西条農業高等学校
	岐阜県立飛騨高山高等学校

表2. 審査委員特別賞

褒賞	学校名
審査委員特別賞 (取組評価部門)	岐阜県立大垣養老高等学校
審査委員特別賞 (枝肉評価部門)	栃木県立矢板高等学校

プロ顔負けの高度な肥育技術に驚きました

JA全農 齊藤良樹常務理事

「体験発表では皆さんの牛飼いに懸ける熱い思いに圧倒され、枝肉審査ではプロの農家顔負けの高い技術レベルに驚かされました。日本の「宝」である和牛に対しては、世界中からますます注目が集まっています。この大会を通して得た、全国各地の仲間たちとの熱い絆を胸に、これからも切磋琢磨し、日本の畜産業界を盛り上げていただければ、主催者としてこの上ない喜びです」



他校の生徒と将来の夢などを語り合う貴重な場となった。参加者からは、「他校のレベルの高い取り組みを知って、大きな刺激を受けました」「自分と同じ志を持つ仲間が全国にたくさんいる事を実感できました」といった声が聞かれた。

大会2日目には、東京都中央卸売市場食肉市場で「枝肉勉強会」を実施。先生から市場で取引される枝肉の評価基準を学び、自らが生産した枝肉を観察した。続いて各校が出品した枝肉をセリにかける「枝肉共励会」が開催され、生徒たちは真剣な表情でその様子を見守った。

出品された和牛去勢(30頭)の平均測定値は、枝肉重量546・1kg、BMS No.9・8で、5等級率は90%。和牛雌(14頭)の平均測定値は枝肉重量469・3kg、BMS No.8・9で、5等級率は71・4%。去勢・雌とも全ての測定値が全国平均を上回った。

続いて、芸界界随一の「肉通」として知られるタレントの寺門ジモンさんが、「く和牛の明日(ミライ)をたのむぞ! 高校牛児!!」の演題で講演。和牛の魅力や熱く語るとともに、将来の畜産業を担う高校生たちへの期待の言葉を贈った。

高い肥育技術と努力を讃え 各校に褒賞を授与

全プログラム終了後、審査結果の発表と褒賞式が行われた。

「枝肉評価部門」の最優秀賞は、歩留基準値79・6と出品牛の中で最高値だった岩手県立水沢農業高

等学校が受賞。同部門の小林淳二審査委員長(日本食肉格付協会業務部長)は、最優秀賞に輝いた同校の枝肉を、「肉量に富み、『バラ』や『カブリ』の充実した枝肉でした。健康のパロメーターといわれる光沢も抜群で、ストレスなく健康に育った牛である事が分かりました」と評価。「全体的に、美味しさの指標といえるオレイン酸値が高い枝肉が多く見受けられました。次回『全国和牛能力共進会』ではMUFA(不飽和脂肪酸)値を競う評価区が設けられるので、脂肪交雑だけではなくそのあたりも意識していただければと思います」とアドバイスした。

「取組評価部門」の最優秀賞は、良好な脂肪交雑やまろやかな口当たりを実現するため、飼料に米ぬかを配合してオレイン酸値を高める取り組みなどを行っている鹿児島県立市来農芸高等学校が受賞。同部門の多田耕太郎審査委員長は同校の発表を、「牛と人に優しい環境づくり、肉質向上などに関心しての取り組みを構成良く図表にまとめていました。活き活きとした日々の取り組みが伝わる優れた発表で、審査委員一同からたいへんに高い評価を得ました」と評価した。

「総合評価部門」最優秀賞は、「枝肉評価部門」優良賞、「取組評価部門」最優秀賞の鹿児島県立市来農芸高等学校が獲得し、悲願の優勝旗を手にした。次の大会でも更に多くの高校が参加し、和牛生産現場ひいては畜産業全体に、大きな活力を与える事が期待される。